連載

中国経済・金融を読む<第8回>

中国農業発展銀行の貸出金動向

王 雷 軒

唯一の農業政策金融機関として

中国国内でも中国農業銀行の認知度は高いが、中国農業発展銀行（以下では、「発展銀行」という）を知っている人は意外と少ない。

発展銀行は、1994年6月に設立された唯一の農業政策金融機関である。中国農業銀行と中国工商銀行が実施していた農業政策金融の業務を引き継ぎ、国有食糧企業に対する食糧買付・備蓄資金の融資を中心的業務として発足した。融資先は食糧関連企業が大半であり、農家への融資は行われていない。

図表1 発展銀行の概況(単位:億元)

	2009年末	2008年末	2007年末
総資産	16,577	13,554	10,676
貸出残高	14,513	12,193	10,224
総負債	16,315	13,319	10,447
借入金	3,652	3,659	3,659
債券発行	8,109	6,497	4,663
預貯金	2,096	1,293	1,125
資本金	253	229	231
純利益	22	17	15

(資料) 発展銀行統計年鑑、2010年などより作成

09年末の貸出金残高は1.45兆元(約18兆円) 資本金は253億元であった(図表1)。北京本店の下に30の省レベルの支店があり、その下に303の市レベルの支店、さらに末端組織1,618の県レベルの支店がある。

なお、同行は正規職員約5万人を有しており、国務院(内閣府に相当)の直轄機関で、業務上、中国人民銀行(中央銀行)及び中国銀行業監督管理委員会の指導や監督を受けている。

発展銀行の主な業務について

発足時には、同行の業務内容は、穀物・綿

花・植物油といった主要農産物の買付・加工、流通と備蓄などに関する資金の貸出業務及び農業生産性の向上と貧困地域の農業発展を促進するための農業総合開発融資と貧困扶助融資の業務からなっていた。その中で、国有食糧企業の食糧・綿花等の買付に必要な資金の貸出が主な業務であった。

98年3月に、発展銀行は、融資業務のなかの農業総合開発融資と貧困扶助融資を国有商業銀行に引き渡し、国有食糧企業への融資を行うことだけに特化した。

04年から、発展銀行は、国有食糧企業以外の民間食糧企業や農村企業向けにも融資を行うようになるなど、業務範囲が拡大し始めた。07年1月には農業・農村インフラ整備の融資も実施できるようになった。

農業・農村インフラ向けの融資増加

発展銀行の国有食糧企業向けの食糧買付・備蓄資金の貸付(政策的貸付)はあまり拡大しないなかで、農業・農村インフラ整備や農村企業向けの貸付残高(商業的貸付)は09年末に5,295億元(約6.5兆円)へと増大し、貸出金残高全体に占める割合が36.5%となっている(図表2)。発展銀行は、中国の農業・農村の振興という農業政策金融機関として果たすべき役割を発揮しつつあると言える。

図表2 貸出金の内訳(単位:億元)

	2009年末	前年比増減額
政策的貸付	9,218	222
備蓄向け貸出	2,508	158
買付向け貸出	2,980	296
そのほか	3,730	-232
商業的貸付	5,295	2,098
短期貸付	1,833	516
中長期貸付	3,462	1,582
合計	14,513	2,320

(資料) 発展銀行統計年鑑、2010年の4頁より作成